

平成25年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<p>〈ミッション〉 (学校の使命) 小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てることを使命とする。</p> <p>〈ビジョン〉 (将来の学校像) アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しい学校の実現を目指す。 ・会うとうれしくなる先生の育成を目指す。 ・会うとうれしくなる仲間の構築を目指す。</p>
----------	---------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	○学年が上がるにつれ、学習面・生活面の落ち着きが見られる。 ○小中一貫教育のメリットを生かした乗り入れ授業や異学年交流がスムーズに行えている。 △学園全体として、各学年に応じて自治能力を育て、高めていく取組が十分でない。 △小5ギャップが生じており、中学入学後も課題を引きずっている。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから ①・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。 貫	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。 ○相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。 ○「自分を創る」ことを意識して生活できる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋っ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合が90%以上になる。	90%	73%	81%	B	80%	89%	B
			地域での生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合が80%以上になる。	80%	75%	94%	B	75%	94%	B	
			生徒の学校生活での話し方について、教員及び生徒の肯定的評価の割合が85%以上になる。	85%	72%	85%	B	73%	86%	B	
			自立ノートを活用し、毎日の生活を「自分を創る」観点から振り返らせる。	85%	74%	87%	B	75%	88%	B	
**	かけがえのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないのちであることを自覚できる。 ○いじめを許さない学校風土を作る。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用し、生徒相互の共感度を高める。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価が100%になる。	100%	87%	87%	B	92%	92%	B
			いじめ撲滅月間で生徒会による目標設定など、主体的な活動を促し、意識を高める。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答が100%になる。	100%	95%	95%	B	100%	100%	A
*	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力の基礎を育てる。 ○生徒指導の三機能を生かした授業によって、生徒の発言をつなぐ。	授業研究を年間に各自2回は実施する。授業研究を通して教員が共に学び合い、授業力を高めていく。	思考力の育成のための発問の工夫や授業の展開について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%	91%	107%	A	90%	106%	A
				生徒の発言のつながりや、そのための場の設定について、授業研究の際の教員の肯定的評価が85%以上になる。	85%	82%	96%	B	90%	106%	A
*	生徒の体力向上を図る。 貫	○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合が70%以上になる。	70%	49%	69%	C	54%	77%	C

【k:評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

平成25年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 **最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	「中学生は進んであいさつをしている」という地域の方の肯定的な評価は、75.3%(前回75.2%)という結果になったが、「地域の方に進んであいさつをする」生徒の肯定的評価は前回の87%から94%に向上している。言葉のレベルについても、達成値が前回の73%から80%に向上した。これは、校内でのあいさつ運動や授業の号令や発表の仕方等の取組の成果であると思われる。しかし、目標値の90%には到達していないので、引き続き取組を継続していく必要がある。	・今回の達成値が前回の73%から80%にあがったことを受けて、校内でのあいさつ運動や授業の号令や返事、意見発表などの取組を今後も継続していくとともに、これからは、他人に言われてするのではなく、自ら進んで積極的にあいさつや返事ができるように教職員も一丸となって取組を進めていく。
		○相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。	「私は相手に伝わるように意識して最後まではっきりと話をしています。」と肯定的評価をした生徒は73%で変動がない。「生徒は学校生活の中で相手を意識し、文末まできちんと言うことができる。」と肯定的評価をした教員は64%と18%から大きく向上した。 目標値の85%にはまだ達していないが、生徒、教員ともに相手にわかりやすく文末まで話すことの重要性を意識し、年間を通じて取り組んできた結果であると考え。	・めざす姿を生徒、教員が明確に自覚し、話型の提示をはじめとして、授業や部活動など様々な場面において徹底した指導を行ってきた。今後も「自分を表現する力」を向上させるため、自分の考えをわかりやすく表現し、その表現内容の充実を図る取組にステップアップしていく。
		○「自分を創る」ことを意識して生活できる。	「私は毎日『自立ノート』を最後まで記入しています。」と肯定的評価をした生徒が75%で変動がない。「生徒は自立ノートに毎日の生活について5行以上書いている。」と肯定的評価をした教員は67%から80%にやや向上している。生徒・教員ともに評価は、目標値の85%には到達していない。しかし、総合的な学習の時間をはじめとする様々な活動後の自立ノートには、活動内容以外にも、自分の生活を振り返り、今後さらに自己を高めようとする内容も増えてきており、生徒の意識の高揚を見て取ることができる。	・「自分を創る」ことを生徒に意識させるため、教員自らが率先して生活することが重要である。また、様々な活動を「自分を創る」という視点から見つめることで、生徒が感じる感動をより大きなものにしていく。それにより、自立ノートの一日の振り返りを通して、内面を見つめ深化するよう働きかけていく。
**	かけがいのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかげがえのないのちであることを自覚できる。	「私は自分も友だちも大切にしています。」「私は生まれてきたことに感謝し、精一杯生きていこうと思っています。」と肯定的評価をした生徒が87%から92%にやや向上している。 数値だけみると低くはないが、目標値100%には届いていない。これは、9年生が83%とやや低い数値になっているためであり、受験等のストレスや目標を持って挑戦していく気持ちがやや弱い生徒がいることも要因のひとつであると考え。このことは生徒の自己肯定感が依然として低く(59%)、自分に自信が十分持てていないことから見て取ることができる。	・道徳の時間をはじめとする学校生活全般において、いのちの尊さを自覚できる取組を継続していく。また、自立ノートの返信を丁寧に言うとともに、各学級で教育相談を定期的に行うなど、個々の思いを引き出せる場を継続して設定する。また、行事等で達成感、充実感を味わわせ、仲間との絆を深めるとともに、やればできるという自信を高めていく。
		○いじめを許さない学級風土を作る。	今回のアンケート調査で「いじめはない」と回答した生徒が100%の目標値を達成した。これは、「いじめ撲滅キャンペーン」の取組や日々の生徒指導を全教職員が丁寧に行った結果であると思われる。しかし、友達同士で調子に乗ってふざけたりする場面も見られるため、今後も注意していく必要がある。	・一人一人の生徒の状況把握に努めるために、1学期から実施している教育相談を今後も継続し、保護者とも連携を密にしながら、生徒の悩みの解消に努める。また、休憩時間や昼食時等、日々の学校生活の中でも、いろいろな場面で生徒とのコミュニケーションをとりつつ、クラス全体を把握できるように努める。
*	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力の基礎を育てる。	教員の90%は、「私は思考力・表現力の基礎を育てるために、授業展開の工夫を行っている。」と肯定的に評価しており、目標値85%を上回っている。 アンケート結果から、校内の研究授業や学園研修の実施などにより、研究テーマを意識した授業展開が継続して行われていると考える。	・今後も研究授業や学園研修等を通してより充実した授業展開が図れるように工夫を重ねていく。具体的には、授業の中で、自分の考えを持つ場面、友だちの考えと比較し深め広げる場面を仕組みたい。また思考を深め表現できる発問を意識していく。
		○生徒指導の三機能を生かした授業によって、生徒の発言をつなぐ。	教員の90%が、「私は生徒指導の三機能を生かして、生徒の発言をつなぐ授業づくりをしている。」と肯定的に評価しており、目標値85%を上回っている。各教科とも、文末まできちんと発言させるとともに「つながりのある発問」について意識した授業展開を行っている結果であると考え。	・今年度作成した「警固屋学園授業モデル」を意識しながら、発問の工夫を第一に教材研究をさらに進める。また、発言しやすいくラスづくりを並行して行い、生徒同士がかかわり合い、生徒が発言をつなぐ授業づくりを今後も継続して行っていく。
	生徒の体力向上を図る	○課題のある柔軟性を向上させる。	長座体前屈において、県平均(H24)を上回る生徒 1年男子 41.7%→ 1年女子 58.3%↑ 2年男子 47.1%↑ 2年女子 50.0%↓ 3年男子 63.6%↑ 3年女子 61.1%↑ 全学年で、83%の生徒が1学期より向上している。 県平均を上回る生徒は49%から54%に向上しているものの、依然として柔軟性に課題が見られる。	・小中合同で取り組む「ノーゲームデー」におけるストレッチの奨励や、運動部活動の顧問と連携した各競技に応じたストレッチを今後も継続して行い、生徒の柔軟性を高めていく。 ・保健体育科の授業を充実させ、単元に応じた柔軟運動を継続して取り組んでいく。

平成25年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 **最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	先生方が、子ども達をよく見て下さっていて、親の知らないことを教えてくれたりと、教育活動がとても行き届いており、いつもありがたく思っている。異学年の交流や、立志式等、学校の教育内容は大変充実していると感じている。にも関わらず、評価にBが多いのは何かもったいないような気がする。指標が厳しすぎるのではないだろうか。
目標達成のための方策の適切さ	A	「あいさつがひびきあう警固屋をめざして」学校が主体となって取組を進めた結果、子ども達の意識が、以前と比べて明らかに違って来たように思う。子ども達から先にあいさつをされると、とても気持ちが良い。地域も一緒になって、さらに「あいさつがひびきあう警固屋」にしていきたい。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	いじめに対する社会の関心は高く、我々も学校に注目しているが、100%の生徒が「いじめはない」と回答しているのは、大変素晴らしい。先生方の日々の取組のおかげである。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析に基づいて適切な改善策が講じられている。子ども達とじっくりと向き合うこと(教育相談等)や学校と保護者との連携を密にすることは、教育活動の基本であり、一番大事なことだと思うので、今後も充実させて続けていって欲しい。
その他		・警固屋中の生徒の様子を見ていて、大変落ち着いており安心できる。何年か前と比べて、見違えるような変化である。こうした風土を、校長先生や先生方が異動しても、変わらない警固屋中の伝統にしていって欲しい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○中学生を中心にして、学校と地域とが協働的な取組を進め、「あいさつがひびきあう警固屋」を創造してきた。子どもたちの意識に大きな変化があり成果があった。次年度は、警固屋学園として、小中共に取り組んでいきたい。</p> <p>○生徒の実態を把握するための、教職員を対象としたアンケートは、「できているか、できていないか」の選択となっているため、数値が低くなる傾向にある。「生徒の何割ほどができているか」という問い方に改め、アンケート調査の精度を高めていきたい。</p>
--------------------	---